

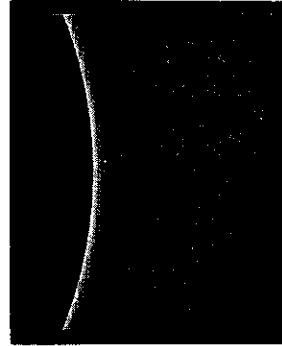
〈書 評〉

地球大気環境問題とその対策

—— アジアからの視点 ——

大気汚染研究協会編

A5版 340頁, 5,500円 オーム社 1993年



リオデジャネイロの「地球サミット」を機に、温暖化、オゾン層、酸性雨など地球環境問題に関する書物がたくさん出版され、その選択に迷うほどである。しかし、中には随分誤りや勘違いが見受けられるものがあり、その影響力を考えると少し心配でもある。このような中で新たに出版された本書はわが国で大気汚染の調査・研究に取り組んできた同協会の創立30周年を記念する出版物であり、類書と比べてはるかに信頼性の高い内容を持つ次ぎの8つの章からなる：序章 地球環境アジア地域、1. 地球規模の大気環境問題、2. アジア地域の自然と人間活動、3. アジアにおける地球汚染物質の排出、4. 各国・各地域の大気汚染の現状、5. 地球規模大気汚染への対策、6. アジアにおける環境問題への国際機関の対応、7. 我が国のODAとアジアの環境対策。

本書の大きな特長の一つは、国内はもとよりアジア各国で活躍している研究者に、中国、韓国、台湾の研

究者を加え、地球環境問題をアジアからの視点で一貫して捕らえてあることである。特に4章で扱われている中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、タイの大気汚染の現状の記述はこれまで一般に入手できる情報としては見当たらなかっただけに非常に興味深くまた貴重な資料でもある。

もう一つの特徴は、環境問題としての科学的な現象や技術的な対策など環境科学、環境工学を整理しただけではなく、人口や経済、国際協力などの視点から総合的に取り扱ってあることである。6章や7章で論じられている国際的な対応や対策は我が国が今後取り組んでいくべきかを、われわれが考えていくときの基礎資料としての価値も大きい。

人間の健康環境について、個々に触れてあるところもあるが、これらの研究の現象と問題点を一つの節として論じてあれば、総合性がさらに増したと思われる。

原 宏 (地域環境衛生学部)